荒川中だより

青い雲

教育目標
「めあてをもち　自分で考え　ねばり強くやり抜こう」
目指す生徒像　「あいさつ・がまん・あとしまつ」のできる生徒

村上市立荒川中学校
令和６年度　第３号
令和６年６月14日発行

災害に備える

校長　西村　諭

この一か月、民生委員・児童委員、学校運営協議会、荒川チャレンジ事務局など多くの皆様を学校へお迎えすることができました。地域の皆様から支えられ、教育活動を行えていることを改めて実感しております。

５月27日は、商工会婦人部の皆様が、中庭の除草ボランティアに来てくださいました。作業の合間にお話を伺うと「２年前の豪雨災害のときに、中学生がメッセージを持って商店を周り、激励してくれたことがうれしかった。そのお礼の意味も込めて…」と話される方がおられました。胸がジーンとしました。甚大な被害を受けたことを、私たちは忘れてはいけません。

近年は、異常気象による自然災害が増加しており、災害への備えが大変重要です。先日当校では避難訓練を行いました。避難訓練は「命を守る訓練」ともいえます。訓練後、「火災から身を守る行動や、中学生として身に付けていきたい心構えや資質等」について、講話をしました。主な内容をご紹介いたします。

災害は、いつ、どこで、どのように発生するか分かりません。だから、日頃からの災害への備えがとても大切になります。

火災から身を守る行動を表す言葉として「おはしも」があります。（お＝押さない、は＝走らない、し＝しゃべらない、も＝戻らない）最近は、「おはしも」に「て」を加えて、「おはしもて（お箸持て）」という言葉も使われます。「て」は「低学年」を意味しており、一番学校に慣れていない「低学年を優先する・守る」という意味です。

地域にいるときに災害が発生したと想定してみましょう。中学生の皆さんが、避難して自分の安全を確保することができたなら、次は弱者や地域を支える役割に目を向けることが大切になります。例えば、園児や児童に対して、優しく接したり共に避難したりする。また、高齢者の力になれることを考え、大人と協力して行動するなど、やれるであろう役割は様々考えられます。自分の命だけでなく、他者の命を守る力を身につけ、「助けられる側から助ける側」になるための心構えと姿勢を身につけることも、中学生の皆さんには求められています。

避難訓練を通して、災害が発生したとき、どのように命を守ればよいか。また、災害に備えることは何か。さらに、災害時に地域を支えるためにできることは何かを、一人一人が考える機会としてほしいと願い、このような講話をいたしました。

＊日々の学校生活を発信するブログを始めました。ＱＲコードを読み取り「荒川中ブログ」をご覧ください。